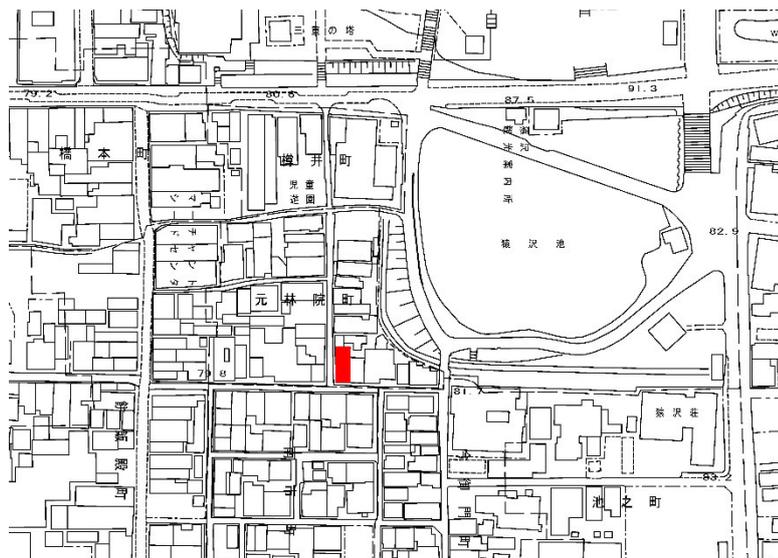


歴史的風致形成建造物 指定台帳

指定番号	37	名称	旧金田家住宅
指定年月日	R7.3.19	所在地(指定地)	元林院町6番1、6番2
指定建造物	主屋	建築年代・概要	昭和5年 木造二階建、切妻造、平入、棧瓦葺
指定建造物	蔵	建築年代・概要	昭和39年頃 RC造平屋建、切妻造、平入、棧瓦葺
位置 ・ 歴史	<p>当地は奈良町の中心部、猿沢池の南西に位置する。町名は興福寺の別院である元林院があったことにちなむ。江戸時代には当家西側の南北通り沿いに絵師が多く住み、絵屋町とも呼ばれた。明治以降、置屋や貸座敷が十数軒あったといい、昭和40年代頃まで花街として賑わった。現在も置屋や料理旅館等の遺構が多く残り、特徴的な町並みを形成している。</p> <p>敷地は逆T字路の北東角地に南面する。登記によると、昭和5年(1930)に建て替えられたことを示す記載があり、主屋は形式技法からもこの時のものとみられる。2階に居室を備える建ちの高い2階建であることから、置屋か貸座敷などに使われていたのだろう。</p> <p>昭和39年(1964)に金田家が取得した際に住宅に改めたとみられ、主屋は外観を含め大きく改造された。後方の便所や敷地北西隅の蔵もその頃のものであろう。その後、令和5年に1階内部をさらに改造する一方、外観は令和6年度に古写真等に基づき復原整備された。</p>		
建物特徴 ・ 改修履歴	<p>主屋は、木造二階建、切妻造、棧瓦葺の町家である。正面に浅い庇を付け、1階は東から出入口、格子窓、平格子を設け、2階は間口いっぱいの窓に格子戸を入れる。壁は腰板張に漆喰塗とする。西面は腰板張の上部を漆喰塗の大壁とし、それを後方に延長し高塀とする。</p> <p>正面は、昭和39年頃、腰に大谷石を積み、金属格子の窓を設け、2階はガラス窓の外に雨戸・戸袋を設けたが、令和6年度、古写真(昭和28年頃撮影)と痕跡に基づき復原整備された。昭和39年頃の石造暖炉構えが所有者一家にとって重要な存在となっており、その保存のために本来の出格子を平格子として整備するなど、必ずしも旧状通りではないが、2階の建ちが高く、1階2階とも格子は細く繊細な意匠とするなど、花街らしい景観を形成する。</p> <p>蔵は、桁行1間、梁間2間、東西棟、平入、RC造で、外壁は漆喰塗(敷地内はモルタル掻落し)とし、西面と北面は腰を縦板張、軒廻りを鉢巻とする。</p> <p>&lt;改修履歴&gt;昭和39年頃：主屋の正面外観、西面外壁ほか、内外を全体に改修 令和5年：主屋の正面出入口、1階の内装を改修 令和6年：主屋の外観を復原整備、蔵の外観(道路側)を漆喰塗に整備</p>		
活用	引き続き住宅として活用。		
価値	元林院に位置し、この界隈が花街として賑わったことを伝える町家で、時代とともに町の在り方が変わっていく中でも、改修を加えながら受け継がれており、奈良町の町家の暮らしにみる歴史的風致の維持と向上に寄与する。		



# 歴史的風致形成建造物 指定台帳



付近見取図

-  該当建造物
-  公開範囲

